

2025

The
Behaviormetric
Society

日本行動計量学会

第53回大会 プログラム冊子

Program of the 53rd Annual Meeting of the Behaviormetric Society

2025年8月29日(金)～9月1日(月)



日本行動計量学会 第 53 回大会プログラム

第 53 回日本行動計量学会大会を 2025 年 8 月 29 日 (金)~9 月 1 日 (月)、専修大学生田キャンパスにて開催させていただき運びとなりました。

専修大学は、1880 年 (明治 13 年)、米国留学から帰国した 4 人の若者、相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格により創立されました。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。社会に「報恩奉仕」することが本学の建学の精神となっています。また、21 世紀を迎えての 21 世紀ビジョン「社会知性の開発」を理念として、「諸科学の研究を通して、地域及び国際社会の発展に寄与するとともに、高度な専門知識と豊かな教養を身につけた有為な人材の育成」を本学の目的として掲げております。日本行動計量学会は専門領域を超えた自然・人文・社会の諸科学における知の集積と、測定、解析などによる生きた情報を取り出す技法の開発に関する学会ですから、本学の 21 世紀ビジョンの目指すところと軌を一にするものと受け止めています。

本学会大会を専修大学でお引き受けするのは、初めてのことになります。専修大学は神田キャンパスと生田キャンパスがあり、交通アクセスのことを考えると神田キャンパスの方が便利なのですが、今回は少し都会の喧騒を離れた、生田の山の上にありますキャンパスの方まで足をお運びいただければと思います。

大会では例年同様に「一般セッション」「特別セッション」「ポスターセッション」「ラウンドテーブルディスカッション」を開催します。大会企画としては、招待公演「スポーツ現場におけるデータとテクノロジー活用の現在地：意思決定支援の視点から」、また準会員を対象とした大会発表賞を決める特別セッションを用意しています。さらに、防犯関係研究者コンソーシアム準備会と共催という形で公開講座セッションもございます。

暑い時期での開催ではありますが、静かな環境で会員同士の活発な相互交流、研究活動をエンジョイしていただければと思います。大会実行委員会は本学の会員及び学会の大会委員によって構成し、準備を進めてまいりました。スタッフ一同「報恩奉仕」の精神で精一杯のおもてなしをさせていただきます。

多くの方々のご参加を賜り、活発な議論が繰り広げられますことを期待しております。どうぞよろしくお願いいたします。

第 53 回大会実行委員長 小杉考司
(専修大学人間科学部)

大会概要

1. 基本情報

- (a) 期間：2025年8月29日(金)～9月1日(月)
- (b) 場所：専修大学 生田キャンパス
- (c) 大会 Web サイト：<https://conference.wdc-jp.com/bms/2025/index.html>
- (d) 問い合わせ先：
 - i. 大会ヘルプデスク bsj-desk@conf.bunken.co.jp
 - ii. 大会実行委員会 bms.conference2025@gmail.com
- (e) 大会の構成

日付	時間	内容
8月29日(金)	12:00	受付開始
	12:30～19:00	チュートリアルセミナー
8月30日(土)	9:30	受付開始
	10:00～17:20	特別セッション、一般セッション 大会発表賞選考会(特別セッション) ラウンドテーブルディスカッション
	8月31日(日)	9:00
8月31日(日)	10:00～12:00	特別セッション、一般セッション
	12:00～13:00	総会(ランチミーティング形式)
	13:10～14:10	ポスター発表セッション
	14:20～15:20	招待公演
	15:30～17:30	柳井レクチャー
	18:00～20:00	懇親会
	9月1日(月)	9:00
9:30～11:30		特別セッション、一般セッション、ラウンドテーブルディスカッション
12:30～14:30		一般セッション、ラウンドテーブルディスカッション、公開講座

※開催形式はハイフレックス(現地+オンライン)を予定していますが、感染症の蔓延や自然災害等により全面オンライン形式での開催となる可能性もございます。変更がある場合、決定次第大会 Web ページ上でお知らせいたします。

2. 重要日程

- 2025年2月21日(金) Web サイト公開
- 2025年4月3日(木) 特別セッションの企画募集開始
- 2025年4月17日(木) 大会参加事前申込、一般発表申込、抄録原稿受付、チュートリアルセミナー参加申込、各種開始
- 2025年5月22日(木) 特別セッションの企画募集締め切り
- 2025年6月12日(木) 一般研究発表申込締め切り
- 2025年6月16日(金) 抄録原稿提出締め切り
- 2025年7月上旬 速報版プログラムウェブ公開
- 2025年8月1日(金) 早期参加申込期間終了
- 2025年8月2日(土) 通常参加申込期間開始
- 2025年8月29日(金)～9月1日(月) 第53回大会

3. 参加費等

(a) チュートリアルセミナー参加費 (1 テーマあたり)

1 テーマあたり	正会員	準会員 (学生)	賛助会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
早期振込	3,000 円	1,000 円	3,000 円	6,000 円	2,000 円
当日支払	4,000 円	1,500 円	4,000 円	7,000 円	2,500 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込 (8月1日(金)まで) を行い、支払いを完了された方が対象です。それ以後は通常参加となり、支払いはクレジットカード支払いのみとなります。
- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、参加キャンセルはできませんのでご注意ください。

(b) 大会参加費

	正会員	準会員 (学生)	賛助会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
早期参加費	6,000 円	3,000 円	6,000 円	10,000 円	6,000 円
通常参加費	8,000 円	5,000 円	8,000 円	12,000 円	8,000 円

- 大会参加費には抄録集 1 冊を含みます。(チュートリアルのみを受講の場合は頒布いたしません)
- 今大会では、プログラム冊子の印刷、郵送は行いません。プログラムは Web 公開いたしますので、pdf ファイルをダウンロードしてご利用ください。
- 正会員には名誉会員・シニア会員を含みます。

- 賛助会員は3名様まで無料です。担当者にメール等で連絡をいたしますので、そちらをご確認いただきお申し込みください。
- 早期振込は Web による参加申込 (8月1日(金)まで) を行い、支払いを完了された方が対象です。それ以後は通常参加となり、支払いはクレジットカード支払いのみとなります。

(c) 懇親会費

	正会員	準会員 (学生)	賛助会員	非会員 (一般)	非会員 (学生)
早期振込	5,000 円	1,000 円	5,000 円	5,000 円	1,000 円
当日支払	7,000 円	2,000 円	7,000 円	7,000 円	2,000 円

- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込は Web による参加申込 (8月1日(金)まで) を行い、支払いを完了された方が対象です。それ以後は通常参加となり、支払いはクレジットカード支払いのみとなります。
- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

4. 宿泊について

宿泊先は予約、斡旋しておりません。

5. 昼食について

- 8月31日(日)の総会参加者には、先着順で軽食をご用意します。
- また大会2日目よりキッチンカーによる軽食の提供がございます。
- 構内にありますコンビニエンスストアは8月31日(日)は休業となっております。その他は8時~20時で営業しております。
- 大学構内および周辺にはお食事をお取りいただける場所が限られておりますので、予めご準備の上ご来場いただくか、キッチンカーをご利用ください。

無線 LAN について

キャンパス内では eduroam が利用できます。また発表者用にゲスト無線 LAN を用意いたします。

会場の機器と発表用資料について

「口頭発表」では、原則対面方式を予定しておりますが、オンラインからの発表も可とします。

1. 会場での発表

- 液晶プロジェクターおよび大型スクリーンが利用できます。PC はご自身のものをご持参ください。ご自身の PC をインターネットに接続いただき、セッションのオンライン会議システム (Zoom) に接続し、画面共有をした上で発表してください。その際、スピーカーおよびマイクは必ず OFF にしてください。
- 発表者 (および質問者) は会場のマイクを利用し、会場設置の PC に接続されたマイクで收音します。
- 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとします。オーラル (口頭) セッションで補足資料を利用する場合は、50 部程度を目安として配布プリントをご持参ください。

2. 遠隔からの発表

- オンライン会議システム (Zoom) に接続し、画面共有をしたうえで発表してください。

一般セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第 53 回大会の一般セッションの発表形態には「オーラル (口頭)」、「ポスター」があります。

一般セッション「オーラル (口頭)」における発表時間は、質疑応答を含めて 20 分です。座長の指示に従い、時間厳守でお願いいたします。「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

一般セッション「ポスター」では、割り当てられたセッション中にポスターを掲示し、かつ、各ポスターの発表者が質疑に応じます。詳細については、別項目「ポスターセッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

特別セッションについて

本大会は、ある特定テーマについて議論を行う「特別セッション」と一般研究発表を行う「一般セッション」から構成されます。第53回大会の特別セッションの発表形態には、「オーラル(口頭)」、「ラウンドテーブル」があります。

特別セッション「オーラル(口頭)」は、1セッション120分で、3件以上の発表をまとめ、一つの企画として実施されます。セッションは、オーガナイザー、司会者、討論者により進行します。それぞれのテーマに沿って発表を行い、発表に関しては、フロアからの質疑応答も可能です。また、企画によっては複数セッションで実施されることもあります。

特別セッション「ラウンドテーブル」については、別項目「ラウンドテーブル・ディスカッションについて」に記載されていますので、そちらをご覧ください。

いずれも発表形式の詳細については事前にオーガナイザーの方にお問い合わせください。また、あわせて「会場の機器と発表用資料について」の説明もご覧ください。

ポスターセッションについて

一般セッション「ポスター」は、2025年8月31日(日)13:00~14:00に実施します。完全対面方式となります。(オンラインからの発表およびオンライン配信はありません)

発表は、次の要項に従って行いますので、発表者の方は、間違いのないようにしてください。

■ポスター発表の成立について

- ポスター発表は、指定された時刻までに会場の指定されたボード位置にポスターを掲示してください。発表時間中は在席し、質疑に応じることにより、正式発表とみなされます。
- ポスター発表者が欠席した場合、および発表時間中に在席していない場合は、「発表取消」となります。発表者の欠席、(連名発表の場合の)発表者の交替などについては、会期前は大会実行委員会に、会期中はポスターセッション座長にご連絡ください。

■ポスターの準備について

- ポスター掲示板(ボード)は、B1サイズのポスターが掲示可能です。これをポスターの大きさの上限として作成してください。
- ポスターの上部には、発表題目と発表者全員の氏名と所属をご記入ください。連名の場合には主発表者に○印を付けてください。

■発表当日について

- 発表者は、発表当日の 9:30 までに総合受付で発表手続を行ってください。発表者の到着確認を行います。その際、ポスター掲示用のテープもしくはマグネットを受け取り、発表会場の指定された番号のボードにポスターを貼ってください (もし別の方法でポスターを貼り付けたい場合は、必要なものをご持参ください)。
- 発表者がどの場所で発表を行うかは、ポスター会場にわかるように掲示しますので、ご確認の上、ご準備ください。
- 発表者は、10:00 までに貼り付け作業を終了してください。10:00 の時点で貼り付けが終了されていることを実行委員が確認します。
- 発表用の資料は原則として抄録集に掲載されたものとし、補足資料を配布される方は、50 部程度をご持参ください。配布も各自でお願いします。
- 掲示したポスターは、ポスターセッションの座長が終了をお知らせした後、14:30 までに片付けてください。それ以降も掲示したままのポスターは大会実行委員会で取り外し、処分いたします。

ラウンドテーブルディスカッションについて

本大会では、ラウンドテーブル・ディスカッションを行います。ラウンドテーブル・ディスカッションは、円卓を囲み、話題提供者 (「発表者」、「オーガナイザー」) のテーマにより自由に意見を交換しながら議論する場です。先着順にテーブルに着席した参加者は「討論者」として自由に発言できます。しかし、議論した結果が特定の結論に至ることを課題としません。

ラウンドテーブル・ディスカッションは研究成果を報告するだけでなく、現在抱えている研究上の疑問、現場での課題、課題についての解決策などを持ち寄り、参加者全員で当該のテーマについて議論します。また、これまでの現場での体験や研究成果をもとに新たな仮説を提案し、それをもとに議論することも可能です。

1 つのセッションの時間は 60 分となります。一般セッションとは異なり、十分な時間をかけて話題提供者と参加者が自由に意見交換を行い、テーブルを囲む全員が同じ立場と目線で話し合います。また、議論した内容を踏まえた上で、話題提供者だけでなく、参加している方々の研究についても、改めて深く考えていただき、今後のご自身の研究をどのように発展させたいかを考え、その内容をグループで共有し、さらに意見や感想をやりとりしていただくような研究者の交流の場としてもご利用いただければと思います。さらに、テーブルを囲む参加者 (討論者) 以外で、周囲のオブザーバー (テーブルの周囲の聴衆) も議論に参加することも可能です。話題提供者と参加者 (討論者) が意見を交わしている状況に、オブザー

バーが発言していただいてもかまいません。

なお、本大会では会場設営の都合上、円卓ではなくテーブルを口の字(四角)に配置し、椅子を10~15脚程度準備します。話題提供者(発表者・オーガナイザー)も参加者もともに着席します。参加希望者が多い場合は、周りのオブザーバー用の席をご利用いただきます。

1. ラウンドテーブル・ディスカッションは話題提供者(「発表者」、「オーガナイザー」)も参加者(討論者)も、ともに着席して開始します。なお、途中の入退場は極力お控えください。

- 「オーガナイザー」…セッションの企画者
- 「司会者」…話題提供者と討議の開始と進行を支える参加者
- 「発表者」…セッションにおける報告者
- 「討論者」…テーブルを囲んで討論する参加者
- 「オブザーバー」…テーブルの周囲の聴衆

(注)「参加者」は上記の全員、「話題提供者」は「オーガナイザー」と「発表者」の両方を指します。

2. まずは話題提供者が、研究の概要と論点についての説明を行ってください。セッションの時間の半分以上を討論の時間に充てるため、この説明が長くなりすぎないように気をつけてください。
3. 次に討論者全員が、ショートコメントをまじえた自己紹介を行ってください。
4. その後は話題提供者の発表の流れに沿いながら、討論者などからのコメントをまじえ、参加者全員で意見交換を進めてください。意見が活発に出始め、論点が具体化したら、その流れに任せてください。
5. 司会者は第一の参加者として発言者を助け、ラウンドテーブルを囲む全員が交流できるよう、話題提供者と討議の開始と進行を支えてください。議論のための時間(セッションの半分以上)を確保するだけでなく、参加者に対し発言を促すようなことも状況に応じて行ってください。ただし、研究報告の主体は話題提供者であり、討議の主体は話題提供者と参加者です。司会者が進行に気を使わずとも、両者の発言が順調に進み始めたら、司会者は討議について自然の成り行きに任せてください。なお、司会者は、全体の意見をまとめたり、結論づけたりすることに責任を負う必要はありません。一参加者として、意見の交流を楽しんでください。また、討論者や他の参加者と協力し、時間どおりの開始と終了を目指して、時間の管理と進行をお願いします。
6. ラウンドテーブル・ディスカッションでは、討議に加わらず、オブザーバーとして周囲で見学をするだけでも構いません。しかし、ご自身の意見を一言述べていただくだけでも研究の交流が生まれますので、可能な限りテーブルに着席し、討議に参加してください。一人でも多くの方にテーブルに着席して議論に参加していただければ、意

見交換も盛り上がると思います。積極的なご参加をお願いいたします。

※話題提供者はテーマについて議論できるような発表用の資料(プレゼン用ファイル、配布資料等)をご準備ください。補足資料がある場合は30部程度を目安として配布資料をご用意ください。発表には液晶プロジェクターが利用できます。PCはご自身のものをご用意の上、セッション開始前に接続テストを済ませてください。

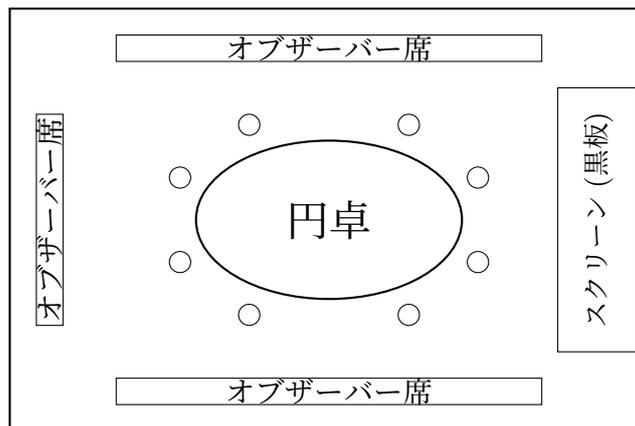


図1 ラウンドテーブルディスカッション会場イメージ

※会場によっては若干イメージと異なる場合があります。

チュートリアルセミナーについて

日時：

2025年8月29日(金) (12:00 受付開始)

テーマ A：12:30～15:30 テーマ B：16:00～19:00

■ テーマ A 「JASP によるデータ分析入門」

講師：清水 優菜 先生 (国土館大学 文学部 教育学科)

場所：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階 A会場

■概要： データ分析にあたり、ソフトウェアの金銭的および時間的コストを削減することは、極めて重要です。このセミナーでは、これらのコストを削減するソフトウェアとして、JASP(Jeffreys's Amazing Statistics Program) を取り上げて、その概要と使用方法について講義・演習を行います。JASP は、アムステルダム大学心理学部を中心に開発が進められている、フリー (オープンソースで開発され、無料で利用可能)、フレンドリー (SPSS のような GUI を採用しており、基本的にボタン操作で利用可能)、フレキシブル (頻度論的分析とベイズ的分析が利用可能) の 3 要素を兼ね備えた統計ソフトウェアです。R や Python に四苦八苦している人、有料ソフトの購入に苦心している人にとって、現状知名度は低いものの、JASP は「福音」となりうるものです。セミナーの前半では、JASP の概要を押さえた上で、データハンドリングや基礎的なデータ分析 (t 検定や ANOVA など) について講義・演習を行います。そして、後半では、応用的なデータ分析 (因子分析など) について講義・演習を行います。

■備考：

- ハンズオン実習を中心とするため、コンピュータを持参することが望ましいです。
- JASP は事前にインストールしておいてください。

■ テーマ B 「線形モデルの理論と R を用いた分析事例」

講師：馬場 真哉 先生 (Logics of Blue・帝京大学経済学部)

場所：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階 A会場

■概要：本セミナーでは、利用頻度の高い線形モデルについて、R を用いた分析事例を通して解説します。初歩的な線形回帰モデルからロジスティック回帰モデル、そして線形ガウス状態空間モデル (動的線形モデル) までを対象とします。モデルの推定方法である最尤法についても解説します。ロジスティック回帰は、質的データを分析する際に必須の手法ですが、単純な回帰分析とは見た目が異なり、困惑することがあるかもしれません。本セミナーでは一般化線形モデルの枠組みでロジスティック回

帰モデルを導入し、単純な回帰分析との比較を通してその理解を深めていただきます。近年はデータの増加に伴い、時系列データを分析する機会が増えました。状態空間モデルは現代時系列分析の標準的手法の1つです。本セミナーでは、回帰分析の切片や傾きが変化する時変係数モデルを対象とし、線形回帰モデルの拡張として状態空間モデルを導入します。講義の前半では、線形回帰モデルを復習したのち、一般化線形モデルへと発展させます。講義の後半では、時系列データに対して線形回帰モデルを利用する際の注意点に言及したうえで、状態空間モデルを用いてモデル化する事例を紹介します。

大会発表賞について

本学会大会では、若手研究者の研究活動を奨励し、学会大会の活性化を図るために、第53回大会若手研究者発表賞を設けることになりました。

発表賞にエントリーされた方は、大会プログラム内の「若手研究者特別セッション (ECR 特別セッション)」にて口頭発表を行っていただきます。ポスター発表は対象外となりますのでご注意ください。

招待講演

第53回大会では、招待講演を実施します。大会参加申込者は、無料で聴講できます。

日時：2025年8月31日(日) 14:20~15:20

場所：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階 A会場

題目：スポーツ現場におけるデータとテクノロジー活用の現在地：意思決定支援の視点から

講師：渡辺 啓太 先生 (國學院大學・人間開発学部)

司会者：奥瀬 喜之 (専修大学)

■概要： スポーツ界でもデータやテクノロジーの進展により、選手のパフォーマンスや戦術的意思決定を支援する取り組みが広がりつつある。近年は、これまで取得が困難だったデータの収集や可視化、リアルタイム解析の導入が進み、競技支援の在り方にも変化が生まれている。一方で、順調に実装・活用できるケースは限られ、スポーツならではの多様な要因が意思決定支援の実効性に影響を及ぼしている。本講演では、トップスポーツの実践現場での取り組みを通じて、データやテクノロジー活用の可能性と限界、そして意思決定支援の今後の展望について考察する。

特別講演「第9回柳井レクチャー」

第53回大会では、特別講演「第9回柳井レクチャー」を実施します。大会参加申込者は、無料で聴講できます。

柳井レクチャーは、2013年に逝去された故柳井晴夫先生の、行動計量学に関するご業績および学会へのご貢献を顕彰するため2014年11月10日開催の理事会にて創設が決定されました。柳井レクチャーでは、故柳井晴夫先生のご業績に鑑み行動科学における計量的方法の理論と応用について、講演者を毎年1名選出し、大会時に1時間程度の特別講演を行っていただきます。

日時：2025年8月31日(日)15:30～17:30

場所：専修大学生田キャンパス2号館地下1階 A会場

形式：対面・オンラインリアルタイム配信 (Zoom ウェビナー) のハイフレックス型

題目：意識調査から読み取る日本人の素朴な宗教的感情とその周辺

講演者：林 文 (東洋英和女学院大学名誉教授)

司会者：岡太 彬訓 (立教大学)

■概要：1958年から日本人の国民性調査で「宗教を持っているか」とともに「宗教的な心は大切か」の質問がなされてきた。日本人で宗教を持っているという回答は徐々に減少しているが当初から3割強程度であり、西欧諸国から日本人は宗教がないとされ、日本人自身もそう認識していたが、西欧からみた無宗教とは異なることが、認識されるようになってきた。それが宗教的な心でありそれを示そうとするのが、国民性調査の最初の意図であった。信じる宗教とはいえない素朴な宗教的感情として存在し続けているのではないかと、いくつかの調査、小調査を通して探ってみた。試みてきた調査では、そうした感情を細かく分解するのではなく、一般の意識の中での現れ方から見ようとするもので、林知己夫先生の調査の考え方の一つではないかと考えている。林先生の数量化Ⅲ類もそうした考えでの解釈の手助けとして重要である。少し古くなってしまったが、国際比較調査や、首都圏の郵送調査とウェブ調査の比較調査などで、調査とデータの問題も考慮しながら読み取ってきたことを述べてみたい。

公開講座

特別セッション「実務家と研究者の協働による防犯対策の立案と評価」は、大会参加者以外の方にも広くご参加いただける公開セッションとして開催いたします。学会員でない方、大会に参加登録されていない方も、どなたでも自由にご参加いただけます。事前申込みや参

加費は不要です。

題目：実務家と研究者の協働による防犯対策の立案と評価

日時：2025年9月1日(月) 12:30～14:30

共催：防犯関係研究者コンソーシアム準備会

場所：専修大学生田キャンパス 2号館 2階 C会場

オーガナイザー：島田 貴仁(滋賀大学データサイエンス学部)

■概要：本特別セッションでは、防犯対策の立案と評価における実務家と研究者の協働事例を紹介する。日本の公的機関では、近年、人口減少や高齢化の進行によって「エビデンスに基づく政策形成(EBPM)」が唱導されるようになった。防犯対策も、行政や刑事司法機関といった公的機関が中心となって実施されているが、担当者の短期的な異動サイクル、複数データの統合分析の難しさなどといった障壁のため、その科学化は容易ではないのが現状である。

このような背景のもと、近年、警察実務家と研究者の協働による対策立案と効果検証の試みが各地で見られるようになってきた。本セッションでは、特殊詐欺、自転車盗、少年非行防止プログラムといった多様なテーマについて、警察と研究者が協働して取り組んだ事例を紹介する。

本セッションを通じて、防犯分野における実務家と研究者の協働モデルを提示するとともに、今後の展開に向けた課題や可能性について議論したい。これらの事例が、各地でのさらなる協働のきっかけとなって、エビデンスに基づく防犯対策の推進に寄与することを期待する。

総会

- 日時：2025年8月31日(日) 12:00～13:00
- 場所：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階 A会場
- 形式：対面・オンラインリアルタイム配信(Zoom ミーティング)のハイフレックス型

今年度も、ランチョンミーティングとして実施します。先着順で軽食を配布する予定です。

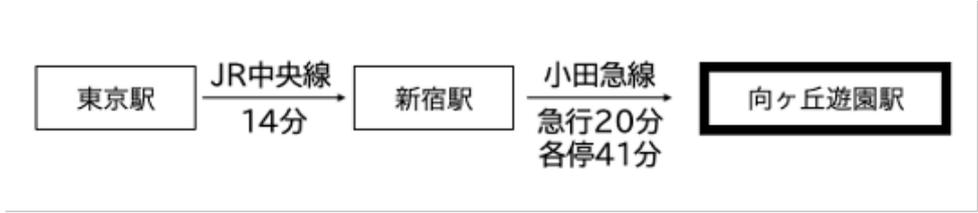
オンライン参加の場合の接続先は、大会開催前に会員メーリングリストでお知らせします。会員メーリングリストの講読ができない場合は、大会実行委員会まで直接お問い合わせください。

懇親会

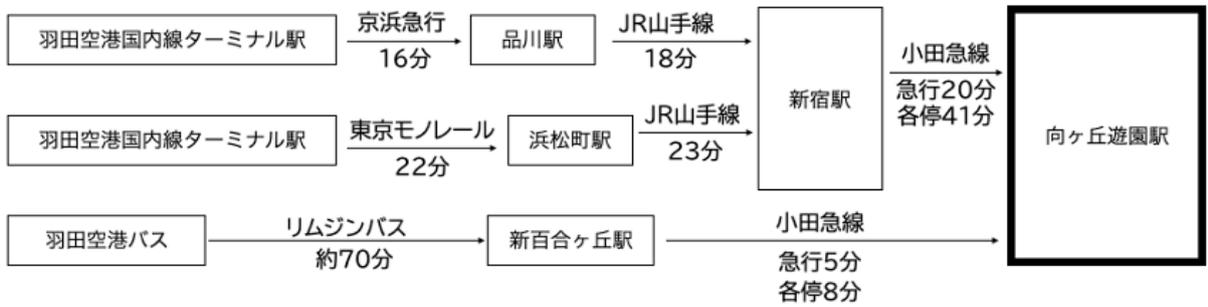
- 日時：2025年8月31日(日) 18:00～20:00
- 会場：専修大学生田キャンパス3号館7階 双翼の間
- 定員に達した場合は受付を終了することがあります。
- 早期振込はWebによる参加申込(8月1日(金)まで)を行い、支払いを完了された方が対象です。それ以後は通常参加となり、支払いはクレジットカード支払いのみとなります。
- 参加費のお振込みまで完了頂いた場合、申込者都合での参加キャンセル・返金はできませんのでご注意ください。

専修大学生田キャンパスへの交通アクセス

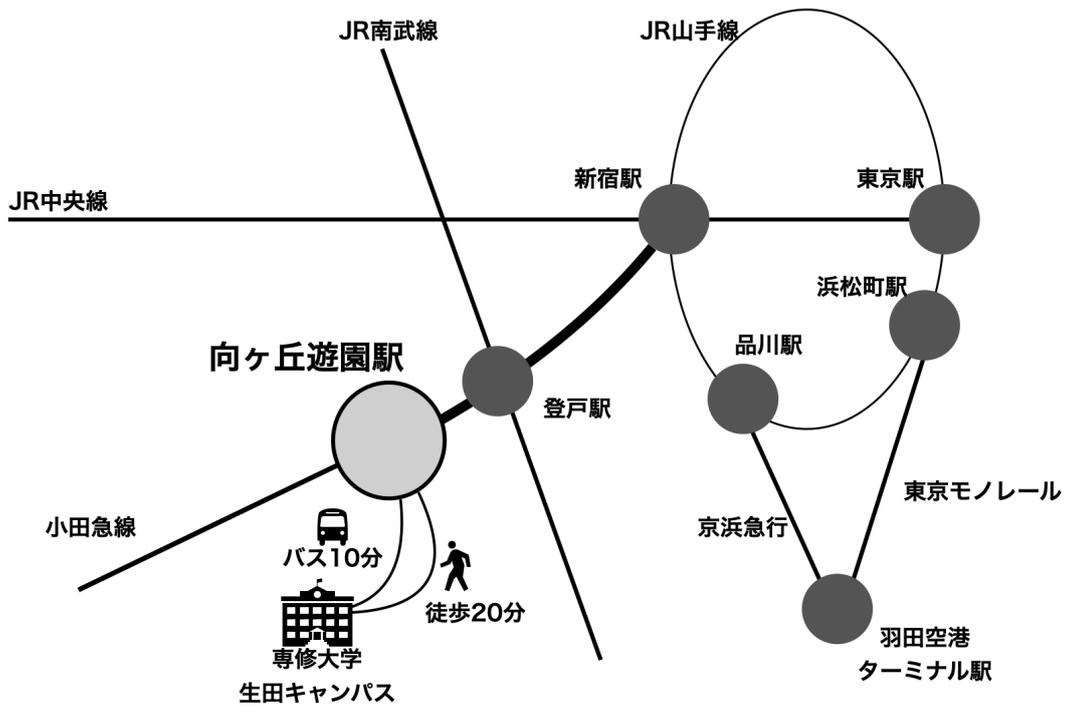
- 住所：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1
- 電車でのアクセス



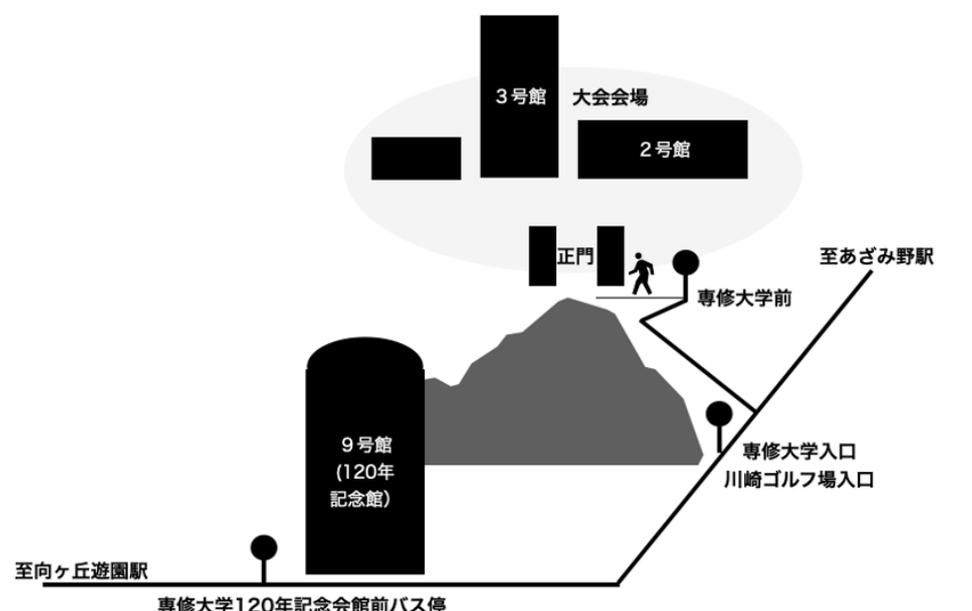
- 新幹線からのアクセス



- 東京国際空港 (羽田空港) からのアクセス



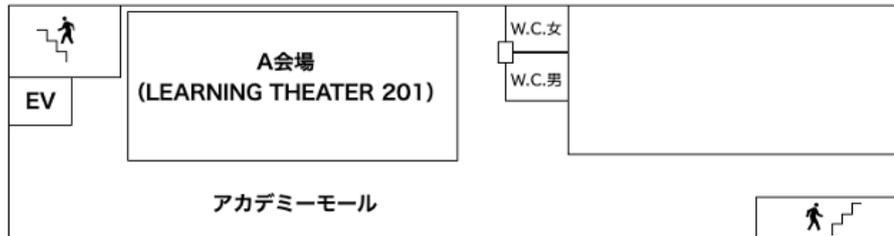
- 向ヶ丘遊園駅 (小田急線) 北口より [向 10] 「専修大学前」 行き路線バスで約 10 分
 - 向ヶ丘遊園駅 (小田急線) 北口より [向 11] 「あざみ野」 [向 12] 「聖マリアンナ医科大学」 行き路線バスで約 10 分
 - 正門へは専修大学入口・川崎ゴルフ場入口下車 徒歩 5 分
 - 向ヶ丘遊園駅 (小田急線) 南口より徒歩 20 分 (2 号館入口)
 - あざみ野駅 (東急田園都市線・横浜市営地下鉄) 西口より [向 11] 「向ヶ丘遊園駅」 行き路線バス (約 35 分)
 - 正門へは専修大学入口・川崎ゴルフ場入口下車 徒歩 5 分
- 第 53 回大会は、生田キャンパスの 2 号館 (懇親会は 3 号館) で行います。



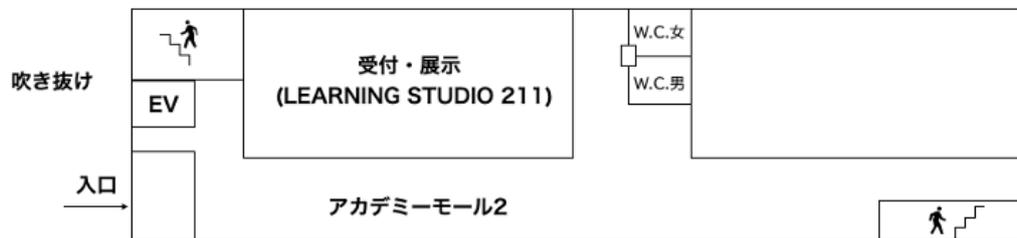
注意) バスでお越しの場合、専修大学 120 年記念館前で下車されますと大会会場とは別の学舎 (9 号館 (120 年記念館)) に到着することになります。どうぞ「専修大学前」行き路線バスの終点「専修大学前」バス停までお越してください。

会場見取り図

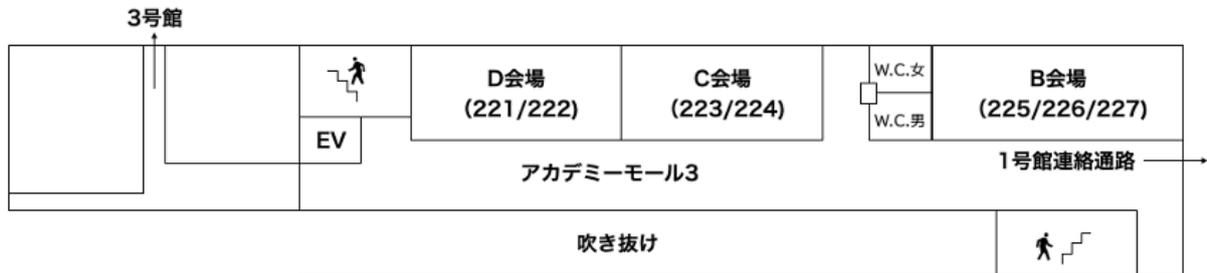
2号館地下1F



2号館1F



2号館2F



プログラム

8月29日(金)	
12:00	受付開始
12:30~15:30	<p>テーマ A</p> <p>タイトル：JASP によるデータ分析入門</p> <p>講師：清水 優菜 先生 (国土館大学文学部)</p> <p>会場：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階</p> <p>LEARNING THEATER 201</p>
16:00~19:00	<p>テーマ B</p> <p>タイトル：線形モデルの理論と R を用いた分析事例</p> <p>講師：馬場 真哉 先生 (Logics of Blue・帝京大学経済学部)</p> <p>会場：専修大学生田キャンパス 2号館地下1階</p> <p>LEARNING THEATER 201</p>

8月30日(土)				
9:30	受付開始			
	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D
10:00 ～ 12:00	特別セッション 統計的社会調査 の新たな課題— 調査バイアス 問題—		一般セッション 心理	一般セッション 統計 1
12:00 ～ 13:00	昼休み			
	特別セッション	特別セッション	一般セッション	ラウンドテー ブル
13:00 ～ 14:00	理論と実践をつ なぐマーケティング・データ 分析	若手研究者 (ECR) 特別セッ ション・発表賞 選考会	調査	Multidimen- sional Statistical Global Associates, MSGGA
～ 15:00				
	特別セッション	特別セッション	一般セッション	ラウンドテー ブル
15:20 ～ 16:20	多様な非対称 データのモデリ ングとその応用	若手研究者 (ECR) 特別セッ ション・発表賞 選考会	食と健康	AI による Web 調査の高度化
～ 17:20				

8月31日(日)				
9:00	受付開始			
	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D
	特別セッション		一般セッション	ラウンドテーブル
9:30～ 10:30	ベイズ統計学の 新たな進展		マーケティング	教育課程および 大学入学前後の 学習経験を考慮 した心理統計 教育 2
～ 11:30				
11:45 ～ 12:45	総会 (ランチ/表彰つき)			
13:00 ～ 14:00		ポスター発表		
14:20 ～ 15:20	招待公演 (会場 A)			
15:30 ～ 17:30	柳井レクチャー (会場 A)			
18:00 ～ 20:00	懇親会 (双翼の間)			

9月1日(月)				
9:00	受付開始			
	会場 A	会場 B	会場 C	会場 D
	特別セッション	一般セッション	一般セッション	ラウンドテーブル
9:30～ 10:30	心理学における モデリングアプ ローチの展開 VII	言語処理	教育	マーケティング におけるデータ 分析の理論と 実践
～ 11:30				
11:30 ～ 12:30	昼休み			
	一般セッション	公開講座		ラウンドテー ブル
12:30 ～ 13:30	統計 2	実務家と研究者 の協働による防 犯対策の立案と 評価		岡太彬訓研究助 成ガイダンス： 申請のガイドと 助成対象者の声 を聴く
～ 14:30				

8月29日(金) 12:30～15:30

8月29日(金)12:30-15:30
チュートリアルセミナーA(120分)
JASPによるデータ分析入門

講師: 清水 優菜 (国士舘大学 文学部 教育学科)

8月29日(金) 16:00～19:00

8月29日(金)16:00-19:00
チュートリアルセミナーB(180分)
線形モデルの理論とRを用いた分析事例

講師: 馬場 真哉 (Logics of Blue・帝京大学経済学部)

8月30日(土) 10:00~12:00

8月30日(土) 10:00~12:00 A会場

特別セッション(120分) 統計的社会調査の新たな課題—調査バイアス問題—

オーガナイザー,司会者:鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

討論者:林 文(東洋英和女学院大学)

S21A-1

紙媒体版とオンライン画面版の調査票による回答影響

○鄭 躍軍(同志社大学 文化情報学部)

S21A-2

面接調査における調査員の属性要因の効果に関する検討

○前田 忠彦(情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設), 石橋 挙
(情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設)

S21A-3

Web 調査データを用いた環境配慮行動の予測モデルの構築

○陳 艷艷(福岡工業大学 社会環境学部)

S21A-4

日本における家庭系フードロス削減行動の実態とその影響要因

○BAROLLI SENIA(同志社大学文化情報学研究科), 鄭 躍軍(同志社大学)

S21A-5

世論は核兵器廃絶に向けた原動力になりえるか

○藤田 泰昌(埼玉大学), 吉田 文彦(長崎大学)

8月30日(土) 10:00~12:00 C会場

一般セッション(120分) 心理

座長:村上 隆(中京大学)

C21C-1 10:00~10:20

カテゴリカル分布ベイズ項目反応理論でのスタンプロゴ感情分析

○小酒井 亮太(AKKODiS コンサルティング株式会社)

C21C-2 10:20～10:40

就業者が考える実務で求められる非認知能力

—業種、職種、職位による差異の検討—

○芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

C21C-3 10:40～11:00

接客時の声かけタイミングが顧客満足に与える効果の定量化

—逃避行動の媒介効果と孤独感の調整効果の検討—

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○徐 慶揚(大阪経済大学大学院 経営学研究科)

C21C-4 11:00～11:20

主クラスター成分分析による心理測定尺度構成

○村上 隆(中京大学 文化科学研究所)

C21C-5 11:20～11:40

計画的行動理論の拡張に基づく家庭ごみ分別行動の決定要因に関するメタ分析

外部要因と異質性の統合的検討

○Hu Jiarong(上智大学大学院地球環境学研究科), 錢 学鵬(上智大学大学院地球環境学研究科)

C21C-6 11:40～12:00

地域コミュニティにおけるサポーター候補の把握に向けた設問抽出

○齋藤 彩(国立研究開発法人産業技術総合研究所), 片山 翔一(国立研究開発法人産業技術総合研究所), 櫻井 瑛一(国立研究開発法人産業技術総合研究所), 本村 陽一(国立研究開発法人産業技術総合研究所), 二瓶 美里(東京大学 大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻), 小野 敬済(東京大学 大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻), 岡田 幸彦(筑波大学 システム情報系/ 高等研究院/ 人工知能科学センター)

8月30日(土) 10:00～12:00 D会場

一般セッション(120分) 統計1

座長: 上田 雅夫(横浜市立大学)

C21D-1 10:00～10:20

大域的構造と局所的構造再考

多次元尺度構成法とクラスター分析法

○岡太 彬訓(立教大学)

C21D-2 10:20～10:40

ソーシャル・メディアのプロフィール文を用いたセグメンテーション

効果的なソーシャル・メディアの管理を目指して

○上田 雅夫(横浜市立大学)

C21D-3 10:40～11:00

キャリブレーションの公平性を評価する新手法の提案

○瀬戸 ひろえ(京都女子大学)

C21D-4 11:00～11:20

人流データに基づく観光客の流出入経路特定

福井県鯖江市における位置情報記録を用いた分析

○藤原 唯愛(津田塾大学総合政策学部), 鈴木 貴久(津田塾大学総合政策学部)

C21D-5 11:20～11:40

GPS データを用いた回遊行動の抽出に関する研究

○横山 暁(青山学院大学 経営学部マーケティング学科), 羽鳥 なの香(青山学院大

学大学院経営学研究科), 有馬 貴之(横浜市立大学国際教養学部国際教養学科)

C21D-6 11:40～12:00

記号演算のための R パッケージの開発

○前川 眞一(東京工業大学・大学入試センター), 福島 健太郎(大阪大学人間科学研究科)

8 月 30 日(土) 13:00～15:00

8 月 30 日(土) 13:00～15:00 A 会場

特別セッション(120 分) 理論と実践をつなぐマーケティング・データ分析

オーガナイザー, 司会者: 土田 尚弘(麗澤大学)

オーガナイザー, 討論者: 中山 厚穂(東京都立大学大学院経営学研究科)

オーガナイザー, 討論者: 鶴見 裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

S22A-1

有名人の人気ダイナミクスが広告評価に及ぼす影響

○河原 達也(株式会社ビデオリサーチ), 土田 尚弘(麗澤大学)

S22A-2

関係人口の創出・深化プロセスについての考察

～ブランド・レゾナンス・モデルを用いた検討～

藤居 誠(城西国際大学 経営情報学部), ○長田 克彦(城西国際大学大学院 経営情報学研究科)

S22A-3

顧客満足度分析を応用した製品デザイン評価法の提案

○井上 勝雄(株式会社ホロンクリエイト), 伊藤 健世(札幌市立大学)

S22A-4

持続可能な行動の困難度と個人傾向の数量化

Rasch モデルを用いた生活者の行動分析

○小口 裕(株式会社ニッセイ基礎研究所)

S22A-5

機械学習によるマーケティング分析における解釈可能性

○中山 厚徳(東京都立大学大学院)

8 月 30 日(土) 13:00～15:00 B 会場

一般セッション(120 分) 発表賞 1

座長:山田 剛史(横浜市立大学)

C22B-1 13:00～13:20

ブランド階層と類似性を統合した競争構造の推定モデル

店舗レベルデータに基づくアプローチ

○豊福 一輝(慶應義塾大学 経済研究科), 本多 将大(慶應義塾大学大学院経済学研究科、理研 AIP), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部、理研 AIP)

C22B-2 13:20～13:40

リーダー的特性のみを持つ女性と、リーダー的特性と女性的特性を併せ持つ女性への評価差の検証

○鎌田 りん(筑波大学 ビジネス科学研究群 経営学学位プログラム), 尾崎 幸謙(筑波大学大学院 ビジネスサイエンス系)

C22B-3 13:40～14:00

母親向け質問回答サイトにおける共感を求める質問の抽出

機械学習を用いた分類モデルの構築

○羽鳥 なの香(青山学院大学大学院経営学研究科), 岩永 二郎(株式会社エルデシユ/電気通信大学), 横山 暁(青山学院大学経営学部)

C22B-4 14:00～14:20

自由記述回答における飽和率推定手法の比較:再捕獲法とLNRE モデルの検討

○上村 大地(専修大学 文学研究科), 小杉 考司(専修大学人間科学部)

C22B-5 14:20～14:40

ノンパラメトリック IRT における項目順序不変性に対する違反評価手法の開発

○大杉 勇心(大阪大学), 福島 健太郎(大阪大学), 山本 倫生(大阪大学)

C22B-6 14:40～15:00

コンテンツリリース戦略とユーザー異質性による視聴習慣形成の動態分析

動画配信サービスの視聴ログとHMMによる分析

○鈴木 詠子(慶應義塾大学経済学部), 星野 崇宏(理化学研究所 AIP センター)

8月30日(土) 13:00～15:00 C会場

一般セッション(120分) 調査

座長:真鍋 一史(統計数理研究所)

C22C-1 13:00～13:20

質問紙調査における回答の系列依存性を考慮に入れた項目反応モデルとその情報関数

○島田 大祐(東京都立大学), 岡田 謙介(東京大学)

C22C-2 13:20～13:40

国際比較の視座からする Schwartz の「価値観モデル」の実証的な検討

世界価値観調査のデータ分析

○真鍋 一史(統計数理研究所 学際統計数理研究系)

C22C-3 13:40～14:00

スマートフォン・ケータイの機能利用志向の類型化

— 2003年・2010年・2020年・2025年調査の比較—

○水野 一成((株)NTTドコモ モバイル社会研究所), 近藤 勢津子(NTTドコモ モバイル社会研究所), 廣瀬 通孝(東京大学名誉教授)

G22C-4 14:00～14:20

地域活動へ参加する人を推定するモデルの作成

○櫻井 瑛一(産業技術総合研究所), 本村 陽一(産業技術総合研究所)

G22C-5 14:20～14:40

質問項目に対する回答困難感を反映するパラデータ指標の探索的研究

○分寺 杏介(神戸大学), 馬場 絢子(奈良女子大学), 福島 綾(一宮メンタルクリニック)

G22C-6 14:40～15:00

レジ袋有料化による心理的变化と政策の効果

定性・定量調査による検証

○吉田 綾(国立環境研究所)

8月30日(土) 13:00～14:00

8月30日(土) 13:00～14:00 D会場

ラウンドテーブル(50分) Multidimensional Statistical Global Associates, MSGA

オーガナイザー, 司会者: 角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

オーガナイザー: 松原 望(東京大学名誉教授)

S22D-1

Multidimensional Statistical Global Associates, MSGA

Making Statistics Great Again! ～再興する統計学～

○松原 望(東京大学名誉教授), 角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学)

8月30日(土) 15:20~17:20

8月30日(土) 15:20~17:20 A会場

特別セッション(120分) 多様な非対称データのモデリングとその応用

オーガナイザー,司会者:中山 厚穂(東京都立大学大学院)

S23A-1

A longitudinal approach to CULMAN data using DWD-(1) Theory and Method

○千野 直仁(Chino Institute for the Studies of Asymmetry and Chaos), 角田 弘子(日本ウェルネス・スポーツ大学)

S23A-2

A longitudinal approach to CULMAN data using DWD-(2) Application

○角田 弘子(日本ウェルネススポーツ大学), 千野 直仁(非対称・カオス研究所)

S23A-3

Fusion penalty に基づく多次元展開法の開発

○守屋 亮平(同志社大学), 谷岡 健資(同志社大学)

S23A-4

非対称二乗距離を利用した非対称多次元尺度構成法について

○土田 潤(京都女子大学), 宿久 洋(同志社大学)

S23A-5

ブランド態度はどう形成されるのか:信頼と拡散が交差するマーケティング・シミュレーション

○藤居 誠(城西国際大学 経営情報学部)

8月30日(土) 15:20~17:20 B会場
一般セッション(120分) 発表賞2

座長:山田 剛史(横浜市立大学)

C23B-1 15:20~15:40

Empirical Study on The Motives for Posting Spoiler Reviews about Films

○金子 祐太(University of Tsukuba)

C23B-2 15:40~16:00

メタバース演劇の可能性と課題

リアル演劇との比較実験

○鈴木 雄一(東京科学大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学系), 笹原 和俊
(東京科学大学 環境・社会理工学院 イノベーション科学系)

C23B-3 16:00~16:20

When the Test Information Curve Misleads

Exact Bias, SE, and RMSE Curves in Item Response Theory

○鄭 澈(国立台湾大学), 楊 昊紘(国立台湾大学), 徐 永豊(国立台湾大学)

C23B-4 16:20~16:40

調査におけるトラップ質問設置の理論的・実質的課題の検討

——Satisficing 理論の概念的整理を踏まえた実証分析——

○森坂 太一(東北大学大学院 文学研究科・学生), 西尾 知耀(東北大学大学院)

C23B-5 16:40~17:00

投票と消費余暇活動の一体化による投票コスト合理化の検証

○高塚 幸治(筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院)

C23B-6 17:00~17:20

一般化ベイズ法による逐次一般ノンパラメトリック分類法の拡張

○加藤 剛(東京大学大学院教育学研究科), 佐宗 駿(東京大学大学院教育学研究科), 岡 元紀(ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス・アンド・ポリティカル・サイエンス統計学科)

8月30日(土) 15:20~17:00 C会場

一般セッション(120分) 食と健康

座長:芳賀 麻誉美(大阪経済大学)

C23C-1 15:20~15:40

食事記録と日記データに基づく Mood-Food Index (MFI)作成の試み
ーテキストマイニングによる感情分析ー

芳賀 麻誉美(大阪経済大学 経営学部), ○濱田 蒼(大阪経済大学 経営学部 4年)

C23C-2 15:40~16:00

昆虫食経験と独自性の主張、制度的環境配慮の関係性分析
ー構造方程式モデリングによる日越比較研究ー

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○NGUYEN DUC TAM(大阪経済大学大学院 経営学
研究科)

C23C-3 16:00~16:20

新型コロナワクチン接種と超過死亡の関係についての研究

○前田 侑香(京都大学工学部), 田中 皓介(京都大学大学院工学研究科), 川端 祐
一郎(京都大学大学院工学研究科), 藤井 聡(京都大学大学院工学研究科)

C23C-4 16:20~16:40

ナッジを用いた, 大学生がサラダを摂取する きっかけの探索と検証

○児島 千佳(慶應義塾大学経済学部), 大仲 真央(慶應義塾大学経済学部), 郭 晨
怡(慶應義塾大学経済学部), 登坂 翠(慶應義塾大学経済学部), 前地 美羽(慶應義
塾大学経済学部), 持松 進之介(慶應義塾大学経済学部), 上地 凌平(慶應義塾大学
大学院経済学研究科), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部, 理化学研究所 AIP センタ
ー), 千代田 路子(キューピー株式会社 研究開発本部), 田中 知珠(キューピー株式
会社 研究開発本部)

C23C-5 16:40~17:00

高齢者における自重トレーニング習慣の筋力向上効果と年齢・性別による効果差の検討
パス解析を用いた分析

○松本 龍彦(株式会社村田製作所), 高丸 泰(株式会社村田製作所), 仲山 千佳夫
(株式会社村田製作所), 沢田 秀司(順天堂大学スポーツ健康科学部), 町田 修一(順
天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科)

8月30日(土) 15:20~16:20

8月30日(土) 15:20~16:20 D会場
ラウンドテーブル(60分) AIによるWeb調査の高度化

オーガナイザー,司会者,討論者:尾碕 幸謙(筑波大学 ビジネスサイエンス系)

S23D-1

AIによるWeb調査の高度化

○尾碕 幸謙(筑波大学 ビジネスサイエンス系), ○中下 綾子(お茶の水女子大学人間文化創成科学研究科), ○廣田 愛海(人間文化創成科学研究科), ○鈴木 貴士(国立社会保障・人口問題研究所, 筑波大学大学院ビジネス科学研究科)

8月31日(日)9:30~11:30

8月31日(日) 9:30~11:30 A会場
特別セッション(120分) ベイズ統計学の新たな進展

オーガナイザー,司会者:繁榎 算男(東京大学名誉教授)

S31A-1

合理的で冷静な個人から見た統計学

○繁榎 算男(東京大学名誉教授)

S31A-2

Stochastic volatility in mean: Efficient analysis by a generalized mixture sampler

○大森 裕浩(東京大学大学院経済学研究科), 平木 大智(東京大学大学院経済学研究科), Chib Siddhartha(Washington University, St. Louis)

S31A-3

集団ゲノムデータのベイズ解析は人類学に何を語りかけるか

○岸野 洋久(中央大学 研究開発機構), 中道 礼一郎(水産研究・教育機構 水産資源研究所), Thorne Jeffrey(ノースカロライナ州立大学 生物科学科・統計科学科)

S31A-4

ベイズファクターによるモデル評価とその計算のチェック法について

○岡田 謙介(東京大学大学院教育学研究科)

8月31日(日) 9:30~11:30 C会場
一般セッション(120分) マーケティング

座長:石橋 敬介(信州大学)

C31C-1 9:30~9:50

Web調査による非計画購買率推定方法の開発

○石橋 敬介(信州大学), 佐々木 舞香(流通経済研究所), 尾崎 幸謙(筑波大学)

C31C-2 9:50~10:10

消費者のWeb利用行動がテレビ広告効果に及ぼす影響の実証分析

情報接触量と購買意向の関係性に関する検討

○栗國 晴楽(東京理科大学大学院経営学研究科), 朝日 弓未(東京理科大学大学院)

C31C-3 10:10~10:30

広告メッセージとの感情的不一致が状態的リアクタンスと購買意欲に及ぼす効果の検討

—リアクタンス傾向の高低による多母集団の同時分析—

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○李 儀(大阪経済大学大学院 経営学研究科)

C31C-4 10:30~10:50

番組配信サービスにおける視聴の多様性が視聴間隔に与える影響の分析

○平林 昇(慶應義塾大学経済学部), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部、理化学研究所 AIP センター)

C31C-5 10:50~11:10

ドラマの視聴ログに基づく離脱要因の解明

階層的離散時間ロジスティック回帰を用いた生存時間分析

○内田 和希(慶應義塾大学経済学部), 星野 崇宏(慶應義塾大学経済学部・理化学研究所 AIP センター)

C31C-6 11:10~11:30

感情的ブランド接触と購買行動の関係性分析

クロスメディア・パネルデータを用いた大学生のメディア接触と消費行動の分析

朝日 弓未(東京理科大学大学院), ○高須 桃寧(東京理科大学大学院)

8月31日(日) 9:30~10:30 D会場

ラウンドテーブル(60分) 教育課程および大学入学前後の学習経験を考慮した心理統計教育 2

オーガナイザー,司会者:山田 剛史(横浜市立大学)

オーガナイザー,討論者:村井 潤一郎(文京学院大学)

オーガナイザー,討論者:杉澤 武俊(早稲田大学)

オーガナイザー,討論者:寺尾 敦(青山学院大学)

S31D-1

教育課程および大学入学前後の学習経験を考慮した心理統計教育 2

○山田 剛史(横浜市立大学), ○村井 潤一郎(文京学院大学), ○杉澤 武俊(早稲田大学), ○寺尾 敦(青山学院大学)

8月31日(日) 13:00~14:00

8月31日(日) 13:00~14:00

ポスター発表

P01

構造方程式モデルにおける次元削減データの硬直化問題

潜在変数測定値 2 次利用に対する新たな視点からの批判と実務的な対応

○深瀬 澄(大阪経済法科大学)

P02

Pólya-Gamma データ拡大による信号検出理論選択モデルのギブスサンプラー導出

○板宮 拓巳(株式会社ドワンゴ)

P03

スマホログを用いた心理尺度検査予測モデルの構築と評価

○五島 杏奈(KDDI 総合研究所), 杉崎 えり子(KDDI 総合研究所), 安田 圭志(KDDI 総合研究所), 中村 みゆき(KDDI 総合研究所), 小林 直(KDDI 総合研究所), 荻島 大凱(奈良先端科学技術大学院大学), 田中 沙織(奈良先端科学技術大学院大学)

P04

オックスフォード功利主義尺度日本語版の作成および信頼性、妥当性の検討

○王 偉宇(関西学院大学社会学研究科), 明地 洋典(京都大学教育学部), 高橋 雄介(京都大学教育学部), 梶原 隆真(京都大学教育学研究科), 松村 有希子(京都大学教育学研究科)

P05

快楽的消費のダイナミクスの解明

消費者の経時的な心理的状态が快楽的商品の購買に与える影響

○中谷 光希(一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科), 加藤 諒(一橋大学ソーシャル・データサイエンス研究科 / 神戸大学経済経営研究所)

P06

日常生活における「困難」に着目した行動記録の活用

アクティビティトラッカーによる行動記録を用いて

○大橋 智(東京未来大学), 谷田 美翔(東京未来大学 子ども心理学部)

P07

特徴の異なる精神疾患傾向の予測とゲーム内行動の関係性

○杉崎 えり子(KDDI 総合研究所), 五島 杏奈(KDDI 総合研究所), 中村 みゆき(KDDI 総合研究所), 安田 圭志(KDDI 総合研究所), 荻島 大凱(奈良先端科学技術大学院大学), 小林 直(KDDI 総合研究所), 田中 沙織(奈良先端科学技術大学院大学)

P08

日本語版対人反応性指標の項目機能の再評価

○白砂 優希(ベネッセ教育総合研究所), 牧野 直道(大学入試センター)

P09

日本の消費者における Nutri-Score への視覚的注意

食品の固有イメージが与える影響

○浅川 雅美(文教大学), 岡野 雅雄(文教大学)

P10

ファンデーション使用に伴う日中の肌の乾燥感変化

—使用者評価に基づく考察—

○池田 直子(花王株式会社 化粧品研究所), 萩尾 友美(花王株式会社 化粧品研究所), 村井 日奈子(花王株式会社 化粧品研究所), 半山 香穂里(花王株式会社 化粧品研究所), 沖山 夏子(花王株式会社 化粧品研究所)

P11

大学生のストレスによる過食傾向とレジリエンスの関連性

○大橋 洸太郎(文教大学情報学部)

P12

コロナウイルスの流行による株価相関構造への影響

新井 優太(麗澤大学経営学部), 西田 明夏音(麗澤大学経済学部), ○名田 悠花(麗澤大学経済学部)

P13

学習項目の反復再生による学習定着度推定の試み

○西山 慧(京都大学), 齊藤 智(京都大学)

P14

欠測データに対するネットワーク分析の相関安定性係数

完全情報最尤推定法とリストワイズ除去の比較

○徳岡 大(人間環境大学)

P15

質問項目における文章の不自然さが不注意回答に与える影響

○齋藤 樹(筑波大学大学院ビジネス科学研究群経営学学位プログラム)

9月1日(月)9:30~11:30

9月1日(月) 9:30~11:30 A会場

特別セッション(120分) 心理学におけるモデリングアプローチの展開 VII

オーガナイザー,司会者:小杉 考司(専修大学人間科学部)

オーガナイザー,司会者,討論者:清水 裕士(関西学院大学)

オーガナイザー,司会者,討論者:武藤 拓之(大阪公立大学)

S41A-1

多次元一般化段階展開モデルによる 心理尺度の国際比較分析ーオックスフォード功利主義尺度を例に

○王 偉宇(関西学院大学), 清水 裕士(関西学院大学)

S41A-2

定常環境下の経験的意思決定の検討

○星野 匠映(関西学院大学社会学研究科), 清水 裕士(関西学院大学社会学部)

S41A-3

単語埋め込みを用いた潜在意味スケーリングによる情動語の感情価ー覚醒度平面上での可視化

Russell (1980)の円環モデルの概念的追試

○小林 美月(専修大学 人間科学部 心理学科), 野村 圭史(東洋大学), 小杉 考司(専修大学)

S41A-4

非線形モデルにおけるベイズファクターの統計的性質の検討

○若井 大成(東京大学大学院教育学研究科、日本学術振興会), 岡田 謙介(東京大学大学院教育学研究科)

S41A-5

犯行動機は変化しているのか

時系列モデルによる殺人動機の検討

○小野 修一(山口県警察本部科学捜査研究所)

**9月1日(月) 9:30~11:30 B会場
一般セッション(120分) 言語処理**

座長:上阪 彩香(大阪成蹊大学)

C41B-1 9:30~9:50

BERTopicによる日本文学作品の年代別トピック分析

○上阪 彩香(大阪成蹊大学)

C41B-2 9:50~10:10

大規模言語モデルを利用した 新しい形の会話型調査システムの提案

○橘田 健太郎(成蹊大学理工学研究科理工学専攻), 小方 博之(成蹊大学理工学部), 亀谷 恭子(成蹊大学理工学)

C41B-3 10:10~10:30

Picture Story Exercise(投影法)における BERT を活用した採点自動化の試論

○川上 将司(イー・ファルコン株式会社), 三好 康祐(narrative nights 株式会社)

C41B-4 10:30~10:50

自然言語処理を用いた文献レビューによる宗教と環境行動の探究

○Miao Ling(上智大学大学院地球環境学研究科), 銭 学鵬(上智大学大学院地球環境学研究科)

C41B-5 10:50~11:10

生成 AI 利用サンプリングによる県議会議事録解析

キーワード抽出と要点抽出の比較

○大森 宏(東京大学大学院農学生命科学研究科生物測定学研究室), 伊神 裕人(東京大学大学院農学生命科学研究科)

C41B-6 11:10~11:30

LDAによる詐欺警告文のトピック抽出と時系列分析

振り込め詐欺の変容に関する計量的検討

○松橋 拓人(電気通信大学), 石垣 陽(電気通信大学), 原 宏太(Borzoi AI 株式会社)

9月1日(月) 9:30~10:50 C会場
一般セッション(90分) 教育

座長:森 一将(千葉大学)

C41C-1 9:30~9:50

学力調査におけるジャックナイフ法を用いた等化誤差の評価方法

○袈岩 晶(国立教育政策研究所)

C41C-2 9:50~10:10

外来語の定着度の実態とそれに連関する属性要因の分析

○朝日 祥之(国立国語研究所 研究系), 鎌水 兼貴(国立国語研究所), 石橋 拳(データサイエンス共同利用基盤施設 社会データ構造化センター), 前田 忠彦(データサイエンス共同利用基盤施設 社会データ構造化センター), 田中 牧郎(明治大学)

C41C-3 10:10~10:30

ビジネス数学における効率的な能力推定の実践

○大森 拓哉(杏林大学)

C41C-4 10:30~10:50

面接対策講座は自己評価を修正するか?

模擬面接を用いた比較研究

○森 一将(千葉大学国際未来教育基幹), 河合 美香(明星大学), 児玉 児玉 桜代里(明星大学), 大江 朋子(帝京大学), 渋井 進(大学改革支援・学位授与機構)

9月1日(月) 9:30~10:30 D会場

ラウンドテーブル(60分) マーケティングにおけるデータ分析の理論と実践

オーガナイザー,司会者:土田 尚弘(麗澤大学)

オーガナイザー:中山 厚穂(東京都立大学大学院経営学研究科)

オーガナイザー:鶴見 裕之(横浜国立大学大学院国際社会科学研究院)

討論者:朝野 熙彦(元・東京都立大学/元・専修大学)

S41D-1

理論と実践のマーケティング:過去、現在、未来

○朝野 熙彦(元東京都立大学/元専修大学), 土田 尚弘(麗澤大学)

9月1日(月)12:30~14:30

9月1日(月) 12:30~14:30 A会場

一般セッション(120分) 統計2

座長:鈴木 讓(大阪大学)

C42A-1 12:30~12:50

平均値の条件差のt検定の問題

シミュレーションによる若干の検討

○岡本 安晴(日本女子大学)

C42A-2 12:50~13:10

プロ野球における投手のボールの持ち時間および投球間隔と安打の関係性についての
検討

芳賀 麻誉美(大阪経済大学), ○宮井 七瑠(大阪経済大学 経営学部4年)

C42A-3 13:10~13:30

Meta-learner による条件つき平均因果効果の推定における未観測交絡因子に対する頑
健性比較

有限サンプルおよび線形モデルにおける検討

○丹 亮人(エム・アール・アイリサーチアソシエイツ), 千羽 敏史(エム・アール・アイリ
サーチアソシエイツ)

C42A-4 13:30～13:50

NMFを用いた潜在意味解析による結婚に関する悩みの分類と変遷分析

○希野花 高島(東京理科大学), 朝日 弓未(東京理科大学)

C42A-5 13:50～14:10

地域愛着に着目した住民クラスターの分類とその特徴の分析

○柿本 直勇(国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 出口 達也(国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 櫻井 瑛一(国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 本村 陽一(国立研究開発法人産業技術総合研究所 人工知能研究センター), 二瓶 美里(東京大学 大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻), 小野 敬済(東京大学 大学院情報理工学系研究科 知能機械情報学専攻), 岡田 幸彦(筑波大学 システム情報系/ 高等研究院/ 人工知能科学センター)

C42A-6 14:10～14:30

離散と連続の混在したグラフィカルモデルの学習

○鈴木 讓(大阪大学 基礎工 統計数理)

9月1日(月) 12:30～14:30 B会場

特別セッション(120分) 実務家と研究者の協働による防犯対策の立案と評価

オーガナイザー: 島田 貴仁(滋賀大学)

オーガナイザー, 司会者: 鈴木 あい(福島大学)

S42B-1

特殊詐欺の被害者と看破者・非被害者を分ける心理・社会的要因

○原田 知佳(名城大学 人間学部), 土屋 耕治(南山大学 人文学部)

S42B-2

自転車盗の被害リスク分析 -公営駐輪場と駅の環境要因に注目して-

○大沼 貴史(科学警察研究所), 齊藤 知範(科学警察研究所), 島田 貴仁(滋賀大学)

S42B-3

自転車の盗難を防ぐ取り組み高知県における警察と研究者の協働

○三船 恒裕(高知工科大学), 日比野 桂(高知大学), 島田 貴仁(滋賀大学), 林 良平(高知工科大学), 渡邊 ひとみ(高知大学), 大井 方子(高知県立大学), 山川 智子(高知県警察本部), 近藤 秀明(高知県警察本部), 新土居 大河(高知県警察本部), 田村 のぞみ(高知県警察本部)

S42B-4

公共駐輪場におけるナッジ理論に基づく自転車の施錠行動促進実証実験

○鈴木 あい(福島大学), 若松 伸一(福島県警察), 相良 幸人(福島県警察), 島田 貴仁(滋賀大学)

S42B-5

少年警察における調査分析について

○泉川 容子(大阪府警察本部 生活安全部 少年課)

9月1日(月) 12:30~13:30 D会場

ラウンドテーブル(60分) 岡太彬訓研究助成ガイダンス:申請のガイドと助成対象者の声を聴く

オーガナイザー,司会者:山田 剛史(横浜市立大学)

オーガナイザー,討論者:岡太 彬訓(立教大学)

オーガナイザー:岡田 謙介(東京大学)

オーガナイザー:横山 暁(青山学院大学)

討論者:三木 毬菜(関西学院大学)

討論者:柏原 宗一郎(関西学院大学)

討論者:小林 美月(専修大学)

S42D-1

岡太彬訓研究助成ガイダンス

申請のガイドと助成対象者の声を聴く

○山田 剛史(横浜市立大学), ○岡太 彬訓(立教大学), ○柏原 宗一郎(関西学院大学), ○三木 毬菜(関西学院大学), ○小林 美月(専修大学), 横山 暁(青山学院大学), 岡田 謙介(東京大学)

日本行動計量学会第 53 回大会

- 主催：日本行動計量学会第 53 回大会実行委員会
- 於：専修大学生田キャンパス

■実行委員会

- 大会実行委員長
 - 小杉 考司 (専修大学)
- 大会副実行委員長
 - 金井 雅之 (専修大学)
 - 奥瀬 喜之 (専修大学)
- 実行委員 [五十音順]
 - 大森 拓哉 (杏林大学)
 - 横山 暁 (青山学院大学)

■協賛 (2025 年 7 月 10 日現在, 五十音順)

- アイブリッジ株式会社
- 一般社団法人社会調査協会
- 一般社団法人ピープルアナリティクス & HR テクノロジー協会
- 株式会社アスマーク
- 株式会社インテージ
- 株式会社 SCREEN アドバンスドシステムソリューションズ

的確に社会を読みとり、課題に挑む

社会と調査

購入方法『社会と調査』は年2回発売(3月,9月)

1 研究室や図書館などでの定期購読をおすすめします。
発売元の京都通信社にメールでお申し込みください。

2 個人購読は、もよりの書店を通じてお申し込みください。
※会員の方がたには、特典の1つとして無料配布しています。
※社会調査協会では販売を行っていません。



No.34 特集 外国にルーツを持つ人たちを めぐる調査

無作為抽出による全国調査……永吉希久子

在日外国人を対象とする Web 調査の可能性と課題……藤媛媛・埴淵知哉

研究と実践を往復するソーシャル・アクション……田中雅子

中国帰国者研究に見るオートエスノグラフィーの可能性……南 誠(梁雪江)

米村千代／大野志郎・朝永昌孝・木村治生・藤原 翔・松本留奈・福本優美子／神林博史・
三輪 哲・阿部晃士・小川和孝・鈴木 努・鈴木伸生／佐藤哲也／松信ひろみ／及川 高／
藤 杏子／宮脇舞希／香川めい／尾川満宏／武田俊輔／真鍋一史／藤村博之／神林博史・
三輪 哲／下瀬川 陽／佐藤典子／川野英二／西野理子／大久保将貴／石田 浩／石田賢示／
吉田耕平

定価 本体 1,200 円+税

発行・編集 一般社団法人 社会調査協会

東京都文京区本郷 5-25-18-3F

TEL: 03-6273-9784 FAX:03-5684-0374

<https://jasr.or.jp/>

入会申し込みについては、本協会ホームページをご覧ください。

制作・販売 株式会社 京都通信社

京都市中京区室町通御池上る御池之町 309

TEL: 075-211-2340 Mail: shigotoba@kyoto-info.com

<https://www.kyoto-info.com/>

書店にない場合は、京都通信社までお問い合わせください。

Causalasで因果関係を自動で推定!

Causalas® (コーザラス) は統計的因果探索を用いて、表形式のデータから自動的に変数間の因果関係を推定するソフトウェアです。

01 データ読み込み

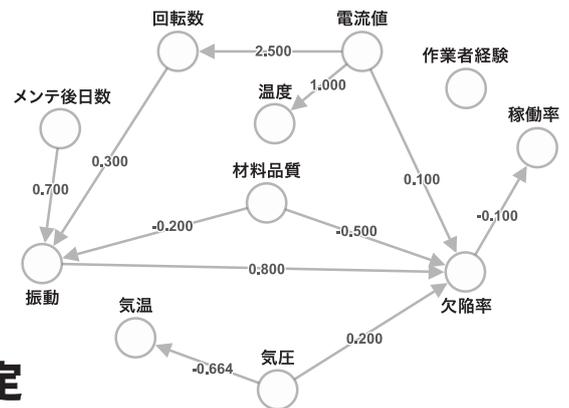
表形式の数値データを読み込み、要約統計量と分布を確認します。必要に応じて前処理を適用します。

02 因果探索により因果モデルを推定

因果探索を実行すると自動的に変数間の因果関係を推定、因果グラフを表示します。

03 因果モデルの評価と因果効果の推定

平均因果効果の推定や介入シミュレーションを実施しモデルを評価します。

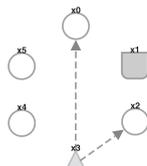


因果探索アルゴリズム LiNGAMを採用

LiNGAMは経済学データや生命科学データなど多くの領域で使用され、その有用性が実証されています。

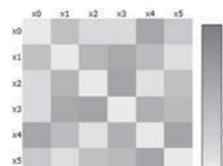
因果探索を効率的にする各種機能

簡単・直感的な操作



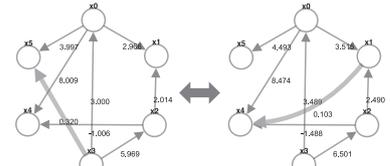
分析者が持つ事前知識を因果探索に反映できます。またブートストラップ法で信頼性を評価し、因果の推定確率を一目で確認できます。

因果グラフの評価機能



誤差変数の独立性の評価やデータセットへの適合度の計算など、多角的な視点で因果グラフを評価する機能があります。

因果グラフの差分表示 NEW



複数グループのデータセットを因果探索し、結果の因果グラフを比較して差分を表示したり、差分スコアを計算することができます。

研究機関・教育機関には特別価格の「アカデミックライセンス」をご用意しています

まずはお試しください!

7日間
無料トライアル

Causalasのすべての機能を
7日間無料でお使いいただけます。

お試し期間終了後は、ライセンスキーをご購入いただき
認証していただくことで引き続きお使いいただけます。



www.screen.co.jp/as/solution/causalas